

No.	ご意見	回答
1	<p>このような計画を策定するにあたって大事なことは、メリットとデメリットの検証。財政上の理由だけではなく、さまざまな目線（通勤・通院している方、高齢者や障がい者など）からメリットとデメリットを詳細に検討し、町民に検討する機会を与えてほしい。</p>	<p>「過疎地域持続的発展市町村計画」というのは、新過疎法（過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法）に基づき策定し、<b>過疎地域からの自立に向けて、持続可能な地域社会の形成及び地域資源等を活用した地域活力の更なる向上が実現するよう、総合的かつ計画的に施策を推進していくための計画</b>で、町の最上位計画である総合計画、総合戦略をはじめ各種計画との整合性を取ったものとなっております。</p> <p>総合計画、総合戦略の策定については、広範な町民の皆様との協働で行っており、今般のお示ししている事業についても、町民の皆さまとのワークショップ、ヒアリングにより事業効果の検証を行っているところです。</p> <p>今後も町民の皆さまとの協働によるまちづくりを推進していく所存ですので、広く町民からの行政への提案や意見を聴取できるよう、新たな広聴機会の創出につきましても検討してまいります。</p>
2	<p>現在のハザードマップでは、仁木地区の避難施設・場所はほとんどが冠水エリア内であるため、避難場所として道の駅など多目的な施設の整備を検討してはどうか。</p>	<p>指定避難所以外の施設において、民間事業所等との協定締結、近隣市町村との広域連携等により、洪水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域外により多くの避難所を設定できるよう取り組んでまいります。</p>
3	<p>「1 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成」について、移住定住の要と転出防止策としてJRの小樽、余市、仁木間の路線存続を検討してはどうか。</p>	<p>現在、北海道及び在来線沿線自治体で構成する北海道新幹線並行在来線対策協議会において、第3セクターによる鉄道、バス転換、鉄道及びバスによる運営など、形態に応じた比較検討を行っているところです。</p> <p>今後、町民の皆さまに内容を説明し、ご意見を伺いながら町としての考えを示してまいりたいと考えております。</p>
4	<p>「2 産業の振興」について、基幹産業である農業を新規で取り組みやすい環境整備や機能が必要ではないか。6次産業化に取り組むための販売強化等々、アイデアはたくさんあるため、町が面倒を見続けるのではなく自立しやすい環境を整備すること。</p>	<p>平成29年度に設立した「仁木町新規就農受入協議会」を主体に、受入れ体制の整備や就農後の支援について、JA、農業委員会、各生産組織、農業改良普及センターとの連携のもと引き続き取り組んでまいります。</p> <p>また、6次産業化（販売、加工等）を行う事業者に対しましては、仁木町企業立地促進条例に基づく支援制度を設けており、多様な経営を展開される新規事業者の定着に向けた取組を行っております。</p> <p>引き続き、事業制度の周知について努めてまいります。</p>
5	<p>「3 地域における情報化」について、一番肝心なのはソフト面の支援であり、情報化に取り組む環境づくりが必要ではないか。</p>	<p>令和3年度から町内全域に光ファイバを整備し、令和4年度からサービスが開始されることに伴い、超高速インターネット通信サービスが利用可能となるため、ICTを活用した事業についても、検討していきたいと考えております。</p>
6	<p>「4 交通施設の整備、交通手段の確保」について、冬季間の高齢者、障がい者の移動手段の確保は不可欠であるため、並行在来線の存続について町民に話かけてほしい。</p>	<p>上記3の回答と同様</p>
7	<p>「5 生活環境の整備」について、大規模火災に対する備えとして、既存の貯水槽でどこまで対応できるか不安である。</p>	<p>消防力の基準として、準市街地（仁木地区）においては消防対象物から半径120メートルの範囲に水利を整備、その他の地域にあっては半径140メートルの範囲に水利を整備することとされており、本町においても当該基準に基づき整備を進めております。</p> <p>水利の整備が必要と見込まれる地区については、今後整備する計画としております。（P19「5 生活環境の整備」(3)計画「耐震性貯水槽Ⅱ型 40t 2基」）</p>
8	<p>「6 子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進」について、子供の医療費が充実している自治体に子育て世代が移住してくると思われるが、通勤手段の確保が条件となっているので、検討してほしい。</p>	<p>令和6年度に開通予定の高規格道路仁木ICの活用、北海道新幹線並行在来線問題対策、既存バス路線の在り方、町予約制バスの充実など、今後の政策への参考とさせていただきます。</p>
9	<p>「7 医療の確保」について、総合病院（小樽・札幌市）への移動手段の確保が必要だと思われるため、今後も維持してほしい。</p>	<p>上記8の回答と同様</p>
10	<p>「8 教育の振興」について、教育レベルの向上は不可欠であり、大学になると全国レベルが求められるため、力を入れてほしい。</p>	<p>今後とも学力向上に努めてまいります。</p>
11	<p>「9 集落の整備」について、現在町内会では、防犯灯・ゴミ集積場所の維持管理を務めており、町内会組織の確立は不可欠であるが、現在電気代が会員1戸あたり数千円から一万円を超える町内会もあるため、転入者には町内会加入を勧めてほしい。また、回覧板の個別郵送は、町内会組織の破壊に繋がると思う。</p>	<p>町内会は、地域住民相互の連絡、環境整備等集会施設の維持管理、良好な地域社会の維持及び形成に重要な役割を果たしており、人口減少、少子高齢化が進む本町において、その役割は一層重要なものとなっております。</p> <p>このことから、町内会館の修繕費補助による運営支援や、転入者への町内会加入促進のための案内文書の配布等施策を検討しております。</p>
12	<p>「10 地域文化の振興等」について、インターネットやテレビが普及しているため、地域に根差した取り組みに絞るのはどうか。</p>	<p>本町においては、これまで町広報やSNS等を通じて、地域の文化や文化活動を担う団体の紹介等を行ってまいりました。今後におきましても、地域に根差した取組を行う活動について、引き続き町民の皆さまに周知してまいります。</p>

13	<p>「11 再生可能エネルギーの利用の推進」について、太陽光パネルを少し張ってPRするくらいならば経費の無駄遣いであるため、太陽光発電システムにおける大容量蓄電池設備を整備し、本格的に取り組むのであれば、北海道電力など大手電力会社にお願いするのが良いのではないかと。</p>	<p>昨今の国内外においては、再生可能エネルギーの活用や脱炭素社会の実現に向けた様々な取組が行われており、本町においてもこれらの取組は重要であると認識しておりますが、費用対効果等も含めて精査していく必要があることから、慎重に検討してまいります。</p>
14	<p>「12 その他地域の持続的発展に関し必要な事項」について、高規格道路ICが2カ所出来るため、それを生かして、道の駅を核に、人材の育成、6次産業の育成、高齢者の活用、避難施設の核にするなどといった街おこしをしてほしい。</p>	<p>一般国道5号線倶知安余市道路の開通によるインターチェンジ開設を踏まえ、インターチェンジを活用した観光形態の構築を検討しております。（P12「2 産業の振興」(3)計画「観光拠点施設整備事業」）</p> <p>その一貫として、今年度より外部専門家（通称、「地域力創造アドバイザー」）を招へいする等、多様な視点から検討しております。</p>
15	<p>「12 その他地域の持続的発展に関し必要な事項」について、新型コロナウイルス感染症の感染者が出た場合、気を付けるきっかけになるため感染の経路などを町民に教えてほしい。</p>	<p>町内での新型コロナウイルス感染症に係る集団感染事例など急激な感染拡大が心配される場合につきましては、当該事業者の了承のもと仁木町ホームページにて公表させていただいており、新型インフルエンザ等対策特別措置法等の一部を改正する法律（令和3年法律第5号）に基づき、本人並びにその接触者のプライバシー保護の観点を考慮し、詳細については公表することを控えさせていただいておりますのでその旨ご理解願います。</p>